

追悼



故 齊藤一好 会員（3期）

2008年1月27日逝去・87歳

1966年度東京弁護士会副会長

生涯現役の見事なご生涯——故 齊藤一好先生を偲んで

会員 鈴木 堯博（24期）

今年1月、齊藤一好先生がスモン患者会の新年会に出席された折に、先生の米寿のお祝い会開催についての打合せをする機会を持った。今年7月に満88歳を迎える先生のお祝い会を、スモン東京弁護団・水俣病東京弁護団として行うことを大変喜んでいただいた。しかし、その1週間後、先生は散歩中に転倒して脳挫傷を受け、そのまま帰らぬ人となられた。痛恨の極みというほかはない。

先生は、東京弁護士会期成会の創立に関与されたお一人として、弁護士会運営の民主化のために奮闘された。弁護士会活動には常に強い関心を持たれ、これまで司法改革関係の委員会にはほとんど欠かさず出席されていた。

公害訴訟では、先生はスモン東京弁護団及び水俣病東京弁護団の団長として、公害被害者の救済と公害根絶をめざす闘いの先頭に立って活動された。被害者たちからは、正義感に溢れた大変頼もしい弁護士として慕われていた。私も弁護団の一員として、先生から弁護士のあり方について極めて多くのことを学ばせていただいた。

また、先生は日本国際法律家協会の中心的なメンバーであった。人権、民主主義、平和、

環境などを通して法律家の国際的な連帯を求める活動に積極的に関わってこられた。

そして、亡くなる直前まで事務所に出勤されて、数多くの訴訟事件を手がけ、法廷での訴訟活動を熱心にこなしておられた。

ところで、もう25年位前のことになるが、雑談の折に、先生がどういう最期を迎えたいかということをお話されたことがある。それは、法廷で訴訟活動をしている最中に絶命したいという内容であった。先生は、日本が敗戦を迎える日まで敵地に赴いていた潜水艦に海軍士官として乗り組んでいた体験の持ち主である。恐らく、死に場所は常に意識されていたのではないかと思う。先生が死に場所として望まれたところは、命がけで闘う法廷の場であった。また同時に、生涯現役であり続けたいという先生の願いも込められていたと思われる。

まさしく、先生は、最後の最後まで法廷活動に勤しみつつ、生涯現役のまま生を終わられたことになる。弁護士らしい弁護士としての誠に見事なご生涯であった。しかし、まだまだ人権と平和のために活躍されるはずだったと思うと、残念でならない。心から先生のご冥福をお祈りする。

故 北村忠彦 会員（17期）

2008年2月3日逝去・70歳

1983年度東京弁護士会副会長



北さん、ありがとう

会員 二宮 忠（17期）

死は突然に訪れるもののようである。人によっては予告されるのだともいうのだが…。

北さんの死、本人にもご家族にも突然だったであろう。私にとっても突然だった。

1月28日東弁選挙公示日の午後、久しぶりに雑談し、暖かくなったらゴルフをしながら一杯やろう！と言って別れたばかりなのに、2月3日にはその約束は破られてしまった。

北さんとは司法研修所同クラスで、昭和40年4月東弁へ登録、北さんは渡部喜十郎法律事務所、私は太田常雄法律事務所（法曹同志会会員、今の法友会12部）へ夫々入所した。昭和40年は、昭和41年度東弁会長選挙に渡部喜十郎先生が立候補、法友会の候補者と激しい選挙戦が繰り広げられ、僅差で渡部喜十郎先生が当選された。この選挙期間中、北さんは獅子奮迅の働き、私達同志の17期生も北さんの働きにつられて走り廻らされた。

爾来、同志の17期生の結束は固く、昭和41年からは毎年成人の日（当時は1月15日）に一泊旅行をしていた。北さんは若いの人柄のせいか芸者さんに大もて、翌日、星野行男（現在新潟県弁護士会）、今村甲一両弁護士と共に芸者さんの家に行き、夕方まで飲んだこともあ

ったようである。この旅行会は多くの逸話があり、昔話として今でも語り合っている。

北さんは欲得抜きで若手法曹の養成に情熱を燃やし、力を注がれた。司法研修所教官、修習委員会、個別指導者等々弁護士生活の大部分を法曹養成に費やされていた。

北さんの薫陶を受け法律実務家になった人は数百名に及ぶと思われる。「地方出張すると教え子に会えてねえー」と楽しそうに話す北さん、至福のひとつきだったようだ。

法曹養成の外にも数多くの会務に積極的に取り組んでいた。特に関弁連理事長時代には、東京三会と十県会の融合に力を注がれた。東京で定期大会を開くようになったこと、役員披露パーティを東京三会と合同で行うようになったことはその成果である。また、管内における弁護士任官、日弁連副会長の増員、関弁連創立50周年記念事業の準備などなどあげればきりが

ない。精力的に行動する馬力ある人であった。

その北さんも今は亡い。淋しい限りである。しかし、私達同志17期の生き残りの者たちの心にはいつまでも失せることなく生きている。

北さん、ありがとう。

合掌